



小学校5年生の保護者のみなさまへ

～「令和7年度すくすくウォッチ」の結果について～

河内長野市立天野小学校

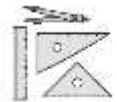
《基本的な考え方》

すくすくウォッチは、子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につけることを目的とし、子どもたちに各教科の学力に加え、ことばの力や文章や情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、そして「見えない学力」と言われるねばり強さや好奇心などを育む、大阪府としての取り組みです

これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

○子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ることで、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善につながったり、励みになったりする。

○学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につなげることができる。



《調査結果の取り扱い》

◇本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。

◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

□学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張って克服できるよう励ましてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。

□学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にしていただきますようよろしくお願いいたします。

□調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないように、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。



1. すくすくウォッチの概要

国語

設問 番号	学校の平均正答率
1	42.1
2(1)	94.7
2(2)	78.9
3(1)	68.4
3(2)	68.4
4	36.8
5	26.3
6	68.4
7(1)	84.2
7(2)	100.0
8(1)	52.6
8(2)	89.5
9	100.0
10	47.4
11	78.9
12(1)	73.7
12(2)	63.2

算数

設問 番号	学校の平均正答率
1(1)	84.2
1(2)	5.3
1(3)	15.8
2(1)	10.5
2(2)	57.9
2(3)	47.4

概要

漢字や助詞、指示語、接続語など、言葉の特徴や使い方に関する事項、ローマ字やことわざ、故事成語など、言語文化に関する事項が出題されました。観点別正答率では「知識・技能」が75.5%で、「思考・判断・表現」は78.9%の正答率でした。また、選択式は69.7%、短答式は80.7%の正答率でした。

特に成果が見られた問題例

- ・書かれた文の意味を正しく捉え、適切な漢字を使って書く問題。
- ・文の中における主語と述語の関係に注意して、述語の部分を正しく書く問題。
- ・日常で使うローマ字を正しく書く問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・示された文の構造や、情報と情報の関係を理解して文の内容を正しく捉える問題。
⇒文章を書くときや発表するときに、主語、述語を意識的に活用するようにします。また、日常の会話においても、主語、述語を抜いて話さないように意識させたいと思います。
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、適切な接続表現を使って一文で書く問題。
⇒文章を書くときに、「まず・次に・最後に」などに意識させ、接続表現を使うように指導します。

概要

基礎的・基本的な概念や性質を問う問題、数学的な見方・考え方を働かせ、グラフ、表、式、言葉に関連させて考える問題が出題されました。観点別正答率では「知識・技能」が63.2%で、「思考・判断・表現」は68.4%の正答率でした。また選択式50.0%、短答式81.6%、記述式65.8%の正答率でした。

特に成果が見られた問題例

- ・円の直径についての理解を通して、1枚の画用紙に円を何個かくことができるかを考える問題。
- ・図形を構成する要素の位置関係に着目して、2種類の三角定規を組み合わせることができる図形を考える問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・資料から読み取った内容と棒グラフが示している内容に関連づけ、内容を正しく理解する問題。
⇒グラフと表を見比べた問題や実生活に沿った問題を取り扱っていきたいと思います。
- ・ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を図を用いて比較し、メダカが基準の数からどのくらい増えたかを、割合を用いて説明する問題。
⇒グラフから読み取ったことを文章にする練習を積極的に行います。また、自力解決の時間を授業の中でつくり、自分の考えを説明する時間を設けます。

理科

設問 番号	学校の平均正答率
1(1)	57.9
1(2)①	63.2
1(2)②	73.7
1(3)	78.9
1(4)	52.6
1(5)	57.9
1(6)	15.8
2(1)	94.7
2(2)	78.9
2(3)①	10.5
2(3)②	47.4
2(4)	36.8

概要

「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」についての出題がありました。平均正答率は、「エネルギー」の領域では34.2%、「粒子」の領域では78.9%、「生命」の領域では68.4%、「地球」の領域では、50.5%でした。問題形式別に見ると、選択式では61.7%、短答式では59.6%、記述式では47.4%でした。

特に成果が見られた問題例

- ・暖かい空気は上方へ流れるという性質を理解し、火事で避難するとき取るべき姿勢を考える問題。
- ・金属は温められると体積が増えるということを理解できているかを問う問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・日陰の位置は太陽の位置によって変わり、日なたと日陰では地面の暖かさに違いがあるということを理解し、現在の日陰の位置を予測する問題。
- ・並列つなぎの性質を理解し、電池が1つなくなった際の回路について考える問題。
- ・水のしみこみ方は、土のつぶの大きさによって違いがあるということを理解し、水たまりができなかった理由を考えて、書き表す問題。
⇒普段の生活に結び付けて、太陽と影の動きを理解させたいと思います。また、複数の条件を考慮して解答する練習問題に取り組み、限られた情報から答えを導き出す練習に取り組ませます。

(無解答率について)

各教科における無解答率については、記述問題で高くなる傾向が見られました。どのように書けばよいか分からない児童が多かったと思われるとともに、記述問題で求められる、書かれている内容を適切に理解し、整理する力が不足しているとも思われます。無解答率を下げるためにも、様々な問題に触れさせて解答の書き方を学習させるとともに、書かれている内容を整理する練習もさせます。また、授業の中で『間違ってもよい。』という意識や、どんな解答も認められるという気持ちを持たせることで、自信を持って解答する児童が増えるようにも取り組みたいと思います。

教科横断的な問題 わくわく問題

観点別	学校の 平均正答率
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	67.5
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	60.5
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	63.2
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	59.6
E 興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	63.2

概要

身近な飲み物であるミックスジュースを切り口に、資源をむだにしないことなど、環境をテーマとした題材や、地域で行われる防災訓練を題材とした問題、近年、さまざまな社会的場面で活用されている「ナッジ」を題材にした問題から、読み取った情報に基づいて抽象化して考える力や、目的に合う自分の考えを理由とともに伝える力を問う内容、論理的に思考し問題を発見・解決していく力を問う内容が出題されました。

特に成果が見られた問題例

- ・ 普段の生活の中に環境に配慮した取組みがあることを理解し、「パルプモールド容器」と「プラスチック容器」のどちらの方がよりよいかを書く問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・ 普段の生活の中で非常食を備えることや、防災訓練に参加することの大切さに気づき、防災訓練の参加者を増やすためにどのような提案ができるか、資料をもとに書く問題。
- ・ ナッジの有効性を理解し、身の回りで適用する方法を考えることを通して、課題の解決には、さまざまなアプローチの仕方があるということを考える問題。

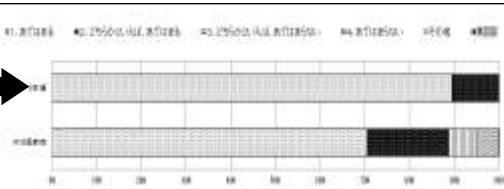
⇒必要な言葉の精選が必要な、様々なことを問う問題にも取り組ませるようにします。また、授業の中でキーワードを決めて自分の考えを書く時間を作ることにより、条件を満たして解答する問題の練習を行いたいと思います。

2、すくすくウォッチの概要

児童アンケート

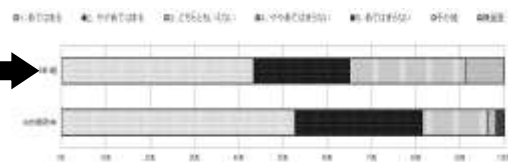
特に成果が見られた項目 府の結果と比較

2. 将来の夢や目標をもっている



特に課題が見られた項目 府の結果と比較

42. わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネット等で調べている



概要

目標にむかって頑張る力、人と関わる力、気持ちをコントロールする力、好奇心についてアンケートがありました。また、学校の様子や、授業での様子、授業以外の様子や学校以外の様子についても項目がありました。

特に成果が見られたアンケート項目例

「2. 将来の夢や目標をもっている」という項目では、将来の自分の姿について、前向きに考えている回答が見られました。高学年になり、自分のことをしっかりと考える力も育ってきたため、夢や目標を持つ児童が多いのではないかと考えられます。

特に課題が見られたアンケート項目例

「42. わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネット等で調べている」という項目では、府と比べて肯定的な意見が少なかったです。わからないことがあったときにそのままにするのではなく、調べて答えを導き出す練習を各教科で取り組んでいきたいと思います。

<その他のアンケート結果より抜粋>

良かったところ

- 友だちと協力することが楽しいと感じる児童が多いです。
- 何事にも一生けんめい努力する児童が多いです。
- まわりに困っている人がいると、早く解決するといいなと思う児童が多いです。
- 悲しんでいる人を見ると、なぐさめたくなる児童が多いです。
- 人の話を聞くときは、その人が言いたいことは何か考えながら聞く児童が多いです。
- 誰もやったことがない物事にとっても興味のある児童が多いです。
- 自分の学級が協力的であると感じている児童が多いです。
- 家の中にホッとする場所がある児童が多いです。
- 家の人に褒められることがある児童が多いです。

課題として見られたところ

- イライラを感じるときには、考え方を変えて落ち着いていられるようにする児童が少ないです。
- どこに行っても、新しい物事や経験を探そうとすることに否定的な児童が多いです。
- 「ふだん１日に、およそどれぐらいの時間、学習以外にスマートフォンやタブレット等を使っていますか。」に対して、大阪府の結果と比べて使用時間が長いです。

結果を受けて

(1) 学校が重点的に取り組んでいくこと



◎読み書きを中心とした授業づくり

- ・自分の考えをノートに書いたり、授業の終わりにはふりかえりの時間を確保して、自分の思いや学んだことを書いたりする活動を取り入れます。
- ・今年度から児童朝会で作文タイムを設け、自分の思いを書いたり伝えたりすることの楽しさや、発表を聞くときの姿勢などを学んでいきます。
- ・毎週１回の朝学習の時間を読書タイムとして設けています。この時間を活用して読書量の増加を図ります。また、音読に積極的に取り組み、読むことの楽しさを感じられるような取り組みを行います。

《 授業では 》

- ①場面に応じて具体物を使って作業をさせながら考えさせる授業を意識します。
- ②算数科では、計算の仕方だけを理解するのではなく、計算や問題の解き方の意味を理解させながら正答を導き出せるようにします。また、自分の考えを積極的に書かせ、交流して理解を深めます。
- ③図やグラフ・表から情報を読み取ったことをもとに自分の考えを持ち、表現できるようにします。まとめる際にも、タブレットなどを活用し、分かりやすくまとめる練習をさせます。
- ④深い学びのためにも、理解したことを活用して考えを説明する力をつける内容を取り入れるようにします。

⑤めあてやまとめを特に大切に、児童一人ひとりが見通しをもてるように、授業の流れや学習の計画を共有します。

⑥理科では、授業で学んだことを普段の生活の中でも意識できるように声かけを行います。また、積極的に観察や実験を行わせ、理解を深めさせます。

《 個々のつまずきの発見 》

すすくウォッチの結果を受けて、個々の児童がどのような分野を苦手だと感じているのか、苦手だと感じる分野にどのような傾向が見られるのかを考察する必要があると感じました。タブレット教材のeライブラリなどを活用し、苦手な分野を発見したり、苦手だと感じる分野でのフォローをしたりします。

《 学習意欲の向上 》

児童の学習意欲を引き出すために体験型学習など、成功体験を味わえるような活動を工夫し、主体的に自ら進んで学ぶことができるように、タブレットや本を活用した調べ学習を行い、それらから探究活動へつなげていきます。授業内でもたくさん褒め、自己肯定感の向上に努めます。

《 複数の資料を関連させて問題を読み取る活動 》

算数の文章題や、理科の問題、社会の資料の読み取りなどでは、複数の資料を読み取る力が必要となります。また、読み取った内容を関連付けながら自分の考えを持つことが大切です。そのためにも、国語科を中心として内容を読み取る力をつけたり、読解力を上げるために新聞ワークシートを活用して、日常の身の回りで起こる社会の話題にも興味をもたせたりして、複数の資料と関連付けながら自分の考えを書く活動に取り組ませます。

(2) 児童のみなさんへ

《 家庭学習の取り組み 》



毎日、家庭学習の時間を確保し、宿題や自主学習を計画的に行いましょう。その際に、特に苦手な教科や分野に時間を使うようにすると、基礎学力の向上につながっていき、応用問題にもチャレンジできるようになります。

《 読書、音読の取り組み 》

図書館や図書室を積極的に利用し、幅広いジャンルの本を読みましょう。また、声に出して本を読むことは、理解力や語彙力の向上につながります。音読することで文章の流れや意味が頭に入りやすくなるので、音読の宿題の際にはそのことを意識して積極的に取り組むようにしましょう。

《 質問や相談をする 》

学習内容で分からないことがあれば、学校の先生やお家の人に積極的に質問しましょう。分からないことを質問することは、恥ずかしいことではありません。むしろ分からないことをそのままにしていると、その先の学習でつまずいてしまいます。

《 聞く力について 》

聞くことは、とても大切な力です。聞く力を身につけることにより、説明や会話の中で話題になる言葉や内容に意識的に触れることができ、話の流れが予想しやすくなります。しかし、聞く力は、急激に身につくものではありません。そのために普段から『最後まで聞く、相手を見る、理解する』ことを意識して、少しずつレベルアップしていきましょう。また、授業中には友だちの発表もしっかりと聞いて、自分の考えとくらべてみるようにしましょう。

《 自分で調べる習慣をつける 》

わからない言葉が出てきたときは、辞書を引く習慣をつけましょう。また、故事成語や四字熟語の本などに興味を持ち、日常生活の会話の中で使ってみるようにしましょう。わからないことをそのままにするのではなく、調べて新たに知ることにより深い学びへとつながります。

(3) 保護者のみなさまへ



《 生活リズムを整える 》

お子様にとって、生活リズムは学習を行う上で最も大切な要素のうちの一つです。規則正しい生活リズムを保ち、十分な睡眠をとることを心がけましょう。また、健康的な食事を心がけ、集中力を保てるようにしておきましょう。

《 計画的な学習の実践 》

日々の学習内容について、確認・管理がしやすいように学習計画表を作成してみるのも一つの方法です。その際に、お子様と相談したうえで、達成可能な計画を作成してみたいはかがでしうか。

《 読書に親しむ習慣づくりを 》

読書することにより、新しい情報や知識を得ることができます。これにより、自分の理解や見解を広げることができます。また、読書によってさまざまな単語や表現に触れることで、語彙力や表現力が向上します。本を選ぶ際は、お子様に合った本を選ぶことをお勧めします。年齢や話題を基準とした本が、常にその子に合うとは限りません。興味関心がある本をきっかけに読んでいくと、「読む力」が高まります。「読む力」がついてくると、いずれ文字数が増えたり、専門的な本を選んだりするようになります。いろいろな本を自然と読めるようになると、生活力、学力ともに自立へと進んでいきます。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご支援をいただきながら、大切なお子様を保護者のみなさまといっしょに育てていきたいと思ひます。今回の結果を参考にしていただき、ご家庭でも今後のことについて、お話しいただけると幸いです。よろしくお願ひいたします。